

令和2年度
印西市民アカデミーだより
 第18号

印西の歴史散策2

第2回目は、旧本埜村の「笠神地区」を散策しました。コースは、本埜支所→→→鳥見神社・
 愛宕神社→→→蘇羽鷹神社→→→南陽院→→→笠神社→→→本埜支所の全行程約3kmをゆっ
 くり2時間かけて歩きました。この笠神地区の平野部の中の標高17mほどの独立した丘に
 は、戦国時代後半、千葉氏重臣原氏の笠神城がありました。小規模で簡易な構造ですが、原氏
 の本拠地として、北西1kmにある小林城とともに使われた城です。西側の住宅地には、「根小
 屋」（城や家臣の屋敷地）の地名が残り、城下集落が存在していたようです。現在、本丸があつた
 とされる場所には、天台宗南陽院が置かれ、物見台があつたとされる場所には、蘇羽鷹神社が
 あります。この笠神城跡の西南400mの小高い丘の上に、鳥見神社と愛宕神社の両社を一
 緒に祀った社があります。また、西100mの平地には、笠神社があります。境内には、100基
 の庚申塔が整然と並んでいます。



笠神城跡

鳥見神社・愛宕神社



笠神社



蘇羽鷹神社

鳥居の向こうに拝殿と本殿があります。境
 内の両側には、庚申塔（刻像塔18基と文字
 塔82基）が配置されています。

昨年の台風により拝殿が倒壊し、現在は、
 本殿だけ。二の鳥居には倒木が被さってい
 ますが、接触していないことに驚嘆・感動！！



鳥見神社・愛宕神社

急な階段を上った先に拝殿と本殿あり
 ます。本殿の組手が精巧・緻密で凄い！丘の
 上からの景色も素晴らしい！



南陽院

天台宗南陽院は「印西大師」の結願寺の一
 つとして知られています。寺は、笠神城の本
 丸があつた一段高いところにあります。